

# 保幼小の連携

入門期の児童が安心して学べる環境作りを・・・

1年生の4月当初の音楽の時間である。ぞうさん、ちょうちょ、いぬのおまわりさん等を歌う、「歌でさんぽ」の学習をしていると、数名の子が“あくび”をしている。「どうしたの?」と聞くと、「幼稚園は、歌っても2つくらいで、たくさん歌わない・・・」という返事だった。幼稚園の歌唱指導は、1日の生活の一部に組み込まれているのである。また、ある時、保育所の先生が、「思いきり遊ぶことができれば、その後落ち着いて活動できるという方針で育てているが、小学校に行くとなぜか落ち着きがないと言われてしまうんです。」という。このようなことから、小学校では、入学してくる子どもや園での生活を正しく理解し、子どもたちが安心して学べる環境を作り受け入れる必要がある。

スタートカリキュラムとは

今回の改訂では、「第1学年入学当初においては、生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をする」とある。スタートカリキュラムとは、入学当初の幼稚園、保育園の教育との接続の大事な時期に行うカリキュラムである。ここでは、総合的に学んでいる幼児教育のよさを生かしながら学習を進めていくことが必要となる。生活科を核とした国語科、音楽科、図画工作科などの内容を合科的に扱い、児童が学校を楽しんでいると感じられるような学習を進めていくことが大切である。

## ねらい

- (1) 友達や先生との人間関係作りをし、一人一人の居場所づくりをする。
- (2) 保・幼の生活スタイルから、小学校の生活に少しずつ慣れる。  
(チャイム席、45分の授業時間)

カリキュラムの作成

幼稚園、保育園、数カ所から入学してくる場合が考えられる。幼稚園、保育園においても入学に向けて指導を進めている。そこで、園での指導内容や生活の様子等について連絡を取り合うようにし、子どもたちがスムーズに学校生活に適應できるように準備を進める。

◇身近な幼稚園等との連携を図る

- ・入学前の小学校との交流の実態を調べる
- ・出身園ごとの人数の把握

◇入学前の学びを継続する

	A保育所	B幼稚園	C保育所	D幼稚園
H20	13	9	1	1
H21	13	2	1	0

◇居場所作りのための人間関係の把握

◇ 入学前の幼児の学び

### A保育所「教育」の部分の内容

健康：危険な行動を知り気をつけて生活する。  
 人間関係：人に迷惑をかけないように考え、集団の一員としての自覚へとつなげる。  
 環境：春の自然や自分たちの生活の変化から、季節と生活の関係に気づくようにする。  
 言葉：文字や数字を読んだり書いたりして生活の中で使って楽しむ  
 表現：季節の歌、思い出の歌、絵本、紙芝居に親しむ。

### B幼稚園「教育」の部分の内容

健康：元気な体作りを進んでする。  
 人間関係：自分に自信をもち、友達と協力し合い生活する。  
 環境：春の自然に気付き、春らしさを感じる。  
 言葉：生活の中で、文字を読んだり書いたりし使えるようにする。生活の中で、数字に親しんだりする。  
 表現：自分の気持ちを相手に分かるように言葉で伝えることができる。



一緒に行こうね

保・幼からの接続

◇生活科を核とした授業の提案

児童は、総合的な学びの体験を積んできている。そこで、その体験を生かした学習を進めていきたい。幼稚園・保育園の学び方により近い「生活科を核とした授業」を進めることで、小学校の学習のスタイルに徐々に慣れていくことができると考える。また、幼稚園・保育園では、朝、体を思いきり動かした後に「主活動」に入ることが多い。小学校においても、思いきり体を動かしたり、遊びを通して人間関係づくりをしたりするために、朝の活動の時間を確保したい。

埼玉のA小学校における「保幼小の連携」



【生活科を核とした授業】

1 はじめに

A小学校は、幼稚園、保育所より入学して来る。一番入学者の多い保育所とは、入学前に「秋の活動」において3回交流している。また、年少から年長児までが、春から数回学校へ訪れるている。入学前には、保育所や幼稚園に向き、児童の様子や園での生活の仕方などを聞き、円滑な接続ができるように連携している。入学当初は、一人一人が、人間関係を形成する大事な時期ととらえ、対面式まで、「朝の時間」に校庭で思いきり遊んだり体を動かしたり、友達・先生との関係づくりをすることができるようにしている。授業では、生活科を核とした合科的な学習を進めたり、児童の必要感から「トイレの使い方」なども学べるように工夫をしている。徐々に小学校の生活なれさせたいと考えている。

1 生活科を核とした計画の例 (入学1週間目の例)

生活「がっこうだいすき」3時間

国語「はる他」 3時間 体育「ゆうぐあそび」 2時間 音楽「うたでさんぼ」 1時間  
算数「なかまづくり」 1時間 図工「私の好きなもの他」 1時間

【1日目】

初日は、学活3時間の中で、◇の内容を組み合わせ指導する。

【2日目】

生活科の校庭探検を核として他教科を組み合わせ学習する。

【3, 4日目】

朝の活動から続けて1時間目に入る。体を十分動かすことで3時間目の学習が落ち着いてできるようにする。

8:10		8:35		1		2		3					
1日目	教室 ◇担任が迎える (毎日)	学活 ◇挨拶 ◇道具の出し入れ ◇トイレの使い方	学活 ◇友達となかよく ◇自己紹介ゲーム ◇廊下の歩き方	学活 ◇帰りの支度の仕方 ◇学校のきまり	毎日の生活の中で、繰り返し指導を重ねていく								
2日目	◇身支度～校庭へ『自由遊び』	生活「こうていたんけんをしよう」1 体育「ゆうぐあそび・ならびっこ」0.5 図工「私の好きなもの」0.5		音楽「うたでさんぼ」0.5 国語「はる」0.5						朝の自由遊びから、遊具遊びへつなげる。集合の必要性から並び方も練習する。他の活動のつなぎに繰り返し行い定着させる。みんなで遊んだことを円くなって伝え合ったり歌を歌ったりする。その後教室へ戻る。トイレの使い方、帰りの支度なども指導していく			
3日目	◇身支度～校庭へ『遊具遊び』	生活「こうていたんけんをしよう」1 国語「はる」0.5 体育「ゆうぐあそび・ならびっこ」0.5		国語 1 「はじめて書く名前」									
4日目	◇身支度～校庭へ『リズム遊び』	生活「こうていたんけんをしよう」0.5 音楽「うたでさんぼ」0.5 算数「なかまづくり」0.5 図工「私の好きなもの」0.5		国語 1 「えんぴつでなぞろう」 ・運筆 ・鉛筆の持ち方									
	◇身支度～	生活「こうていたんけんをしよう」0.5											

2 『朝の活動』の実践例

【朝の活動】

友達・先生との人間関係づくり

時間	・児童の活動	◇教師の指導・支援
登校	カバンの片付けなどの支度ができた児童から、校庭へ出て活動を始める (この時間は、友達や先生とのかかわり関係を築く時間とする)	◇教師は、子どもたちを笑顔で迎えたい。 身支度などを個々に指導する。
8:10	・チャイムで一度集合する。 ・大きな声を出して挨拶をする。 ・自分の好きな遊具で友達と遊ぶことを指示する。	◇教師から元気に挨拶する。 ◇大きな声、校庭いっぱい響く声で挨拶をさせる ◇校庭で思いきり体を動かし、たくさんの友達とかかわれるように配慮する。
8:35	・挨拶をして、教室へもどる。	◇廊下の歩き方を意識させる声かけをする。

3 まとめ

【スタートカリキュラムのよさ】

生活科を核として合科的に扱うことにより、幼稚園などの生活と同じように大きな枠で学習を進めた学習でスタートできる。指導することは1日目に集中して伝え、児童の必要感をとらえ、繰り返し指導していく。また、『朝の時間』は、新しい環境での友達作りをする有効な時間である。思いきり体を動かすことで次の学習に落ち着いて取り組むことができる。